

はじめに

公益財団法人ヤマハ発動機スポーツ振興財団
調査研究・担当理事 浅見俊雄

公益財団法人ヤマハ発動機スポーツ振興財団は2006（平成18）年11月に設立され、翌2007（平成19）年度から事業を開始した財団で、その主たる事業であるアスリートなどのスポーツ実践者およびスポーツ医・科学分野の研究者として世界の第一線で活躍しようとしているチャレンジャーをサポートする助成事業を当初から展開して、スポーツの振興・発展に貢献してきた。この事業は本年2017（平成29）年4月に第11期を迎える。

この個人への研究・体験助成と並行し、日本のスポーツの一層の振興と発展に寄与できるような調査研究する組織を2012（平成24）年度に立ち上げ、以降、日本の「障害者スポーツに関する社会学的な調査研究」に取り組み、そして2015（平成27）年度からは「日本のトップスポーツの現状と課題に関する社会学的な調査研究」を進めてきた。そして毎年それぞれの年度の調査研究成果をまとめた報告書を刊行してきた。

この報告書は、2016（平成28）年度に行った『「トップスポーツ」の持続可能なシステム構築に向けた探索的調査その1—ジャパンラグビートップリーグに着目して—』の成果をまとめたものである。「トップスポーツ」という課題のキー・コンセプトは、ここでは日本における競技スポーツでトップを形成している運営形態、組織でのスポーツとでもいうべき概念で、プロスポーツ、「実業団」と呼ばれている企業スポーツ、あるいは競技力の高い社会人クラブや大学の運動部など、競技種目によって異なる形態を持つと思われる。いずれにせよこの「トップスポーツ」の概念規定は、この研究を進める中で構築されていくものであろうと個人的には思っている。

第1章では、本プロジェクトの問題意識と研究目的とともに、今後の調査研究活動の方向性や課題について短くまとめている。

第2章では、2019年のラグビーワールドカップ日本大会の試合会場となる兵庫県と静岡県で実施した2016年シーズンのジャパンラグビートップリーグ2試合のスタジアム観戦者調査結果について報告している。

第3章では、ラグビーフットボール関係者に対して実施したラグビー普及推進や2019ワールドカップに向けた取組みなどについてのインタビュー調査の内容が報告されている。

なお、この報告書とは別に「障害者スポーツの振興と強化に関する調査研究—テレビ放送、選手認知度、大学による支援に注目して—」のタイトルで、本年度の別プロジェクトでの報告も刊行されているので、あわせてご活用いただきたい。